

(表紙)

学生の手による空き家活用の実践
—地域と大学の連携により糸島地域の空き家を「地域活動の拠点」へと再生する—

糸島空き家プロジェクト

福岡県糸島市



1. 糸島空き家プロジェクトとは

2005年に九州大学が移転を開始した糸島半島では、学研都市構想を推進する一方で急増する空き家が課題となっています。このプロジェクトでは、地域と大学が連携し、糸島の空き家を学生の住まいや地域活動の場として利活用することを試みました。学生と地域ボランティアで協力して空き家を「住む」場所としてのシェアハウス、「働く」場所としてのコワーキング、「集まる」場所としての学習塾など、地域の新たな拠点へと再生し、改修後も学生の自発的な活動を促進しながら地域と連携する手法を提案しています。改修時には行政や地元の企業、地域住民の協力の下、学生主体で施工を行います。また、施工期間中にも様々なワークショップを企画し、学生と利用者、さらには地域との交流を深めていくというプロセスで改修を行っています。



急増する空き家

糸島市では若年人口の流出と高齢化に伴い、空き家、空き店舗が増加している。行政も空き家の活用に積極的に取り組んでいる。



学生と地域の断絶

学生が地域に飛び出し、課外活動を行ったり、地域行事に参加したりする機会が少なく、地元住民との交流の少なさが問題視される。



キャンパス移転

総合移転開始から12年。糸島地域と九州大学は地域と大学が連携する“学研都市”の在り方を模索し、まちづくりが進められている。



学生



企画立案・改修工事

糸島空き家プロジェクト

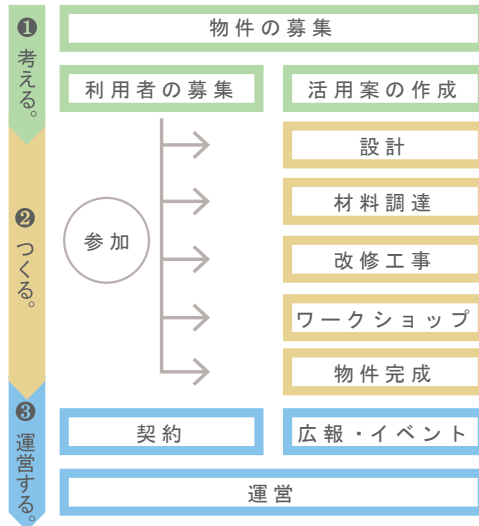


空き家



2. 活動の趣旨

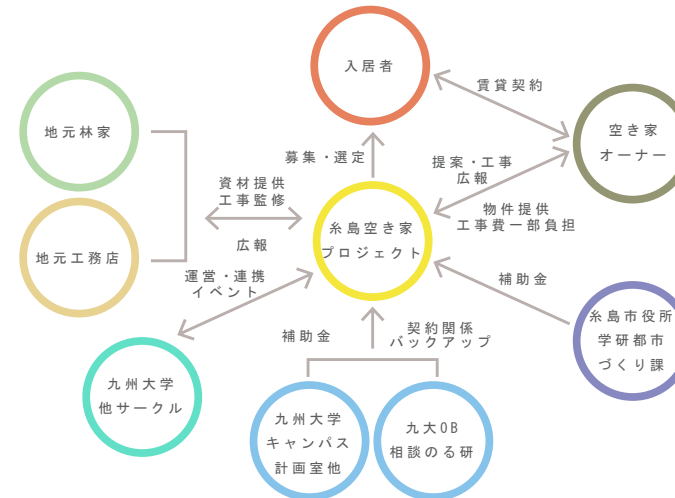
学生による設計・改修・運営



私たちの活動はまず、空き物件を募集するところから始まります。その中で空き家オーナーの理解が得られた物件について、自分たちで物件の活用案を作成します。地元の工務店や林家の指導を受けながら、学生主体で利用者と共に施工を行います。たくさんの方と交流し、利用者だけでなく多くの人に愛着の持ってもらえる物件になります。

その後は九大OBや、地元商工会などの運営のプロのサポートの元、物件の運営を行っていきます。特にイベント開催に力を入れ物件の情報発信と物件を利用した地域交流活動を積極的に行います。

改修を通じた人とのつながり



糸島空き家プロジェクトは九州大学の学生によって構成された団体です。改修活動では、キャンパス計画室、OB、地元施工業者、行政など多くの方々から支えられて成り立っています。学生と関係者のみでなく、活動を通して関係者同士の新たなつながりが生まれています。また物件が増えるごとに糸島空き家プロジェクトを軸として各物件の関係者がつながっていきます。これらのつながりを大切にするこことによって、持続的な活動を行うことができます。

3. 改修のプロセス～コワーキングカフェがやがや門の場合～

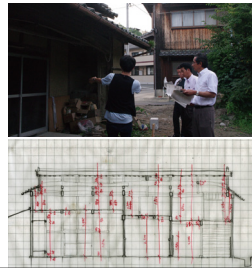
I. 空き家募集

SNSや人伝いに空き家を募集します。直接連絡もしくは農協や行政などからの情報提供や依頼を受けることもあります。



II. オーナーとの顔合わせ 現地調査・実測

物件のオーナーと顔合わせを行い、現地調査を行います。空きプロの活動紹介をし、依頼者の同意が得られた場合プロジェクトが動き出します。



III. 設計・プレゼン

実測をもとに模型や提案書を作成し、依頼者との交渉を行います。



IV. 間伐・製材体験

「がやがや門」では地元林家の協力のもと、自分たちで実際に山に入って間伐を行い、木材を調達しました。



V. 施工・WS

施工段階では学生自ら空き家の改修を行います。地元の大工や左官職人、設備業者との連携を取りながら進めます。



VI. 竣工・運営

大学内で「がやがや門運営サークル」が発足し、学生による運営が行われています。カフェでは地域住民によって日替わりカフェが開かれます。



VII. 補修・追加工事

物件の補修や追加工事も糸島空き家プロジェクトが行います。

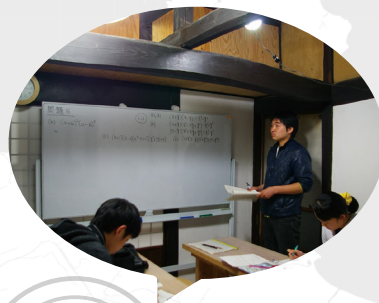


4. 面的に広がる空き家を介したまちづくり

空き家の改修によってまちの中に地域住民や訪問者にとっての新たな拠り所が生まれます。はじめはただの点である物件も空き家プロジェクトの活動を通して徐々につながりを持ちます。糸島地域に多くの拠点が点在することで、学生団体、地域住民、行政など多くの関係者が繋がり、面的にまちづくりが行われていきます。

地元住民 × 日替わりカフェ

「学び家」横のカフェ「がやがや門」では地元住民がカフェを運営しています。地元商工会の会議スペースであるとともに、お母さん達の井戸端会議の場にもなっています。



地元高校生 × 九大生
学習塾「学び家」では九大生が地元高校生に対して授業を行います。

地元工務店 × 学生

空き家改修にあたって学生がわからないことは、地元工務店や業者に教えてもらいます。大学では学べないリアルな家づくりを学びます。



地元の子供たち × シェアメンバー
士間を利用してシェアハウスの入居者が子供向けのイベントを開催します。



地域住民 × シェアメンバー
シェアハウスの農園は、住人と地元住民が共同で利用できます。草刈り、種まき、収穫などを一緒に行うことで交流が生まれます。



5. 活動実績

改修物件

第一弾物件「まちの縁側～糸家～」
第二弾物件「元岡学び家 九大研」
第三弾物件「がやがや門」

第四弾物件「Farm Share House 篠原」
第五弾物件「シノハウス」
第六弾物件「九大熱風寮 糸」

活動

きこりになろうプロジェクト
伏龍池ランドスケープWS
RISE UP KEYA

元岡豊年まつり
あかみっくらんたん
前原北部まちづくりWS



1. まちの縁側～糸家～



地域に開かれた縁側のような土間付きシェアハウスへ



糸島空き家プロジェクト発足の契機となったプロジェクトです。糸島市篠原東にある薬局だった店舗付住宅をシェアハウスとして改修しました。かつて店舗部分であった土間を「まちの縁側」と称したコミュニティスペースとしました。竣工後、九州大学の学生とOBが入居し、「まちの縁側～糸家～」として生まれ変わりました。その後は、入居者を中心に、地域の方々との食事会や地域の子供を対象とした寺子屋、九州大学の学生が製作した映画の上映会など様々なイベント等を行い、地域の方々の協力を得て運営しました。

B
E
F
O
R
E
改修前



A
F
T
E
R
改修後



2. 元岡学び家-九大研-



築30年の古民家が子供たちの活気あふれる学習塾へ



福岡市西区元岡の古民家を「九大家庭教師の会」が運営する塾に改修したプロジェクトです。杉材をふだんに用いたフローリングや既存の梁を活かした吹き抜きなど、**築130年の歴史を持つ古民家**の特徴を生かしながら設計を行いました。設計のみならず、**漆喰塗りや家具作り、焼き杉**など、施工にもワークショップ形式で学生や地域住民を積極的に取り込みました。2012年7月に竣工し、同8月に塾を開講。問い合わせや体験入塾に訪れる地域の人々が絶えず、生徒数も徐々に増えています。

B
E
F
O
R
E
改修前



A
F
T
E
R
改修後

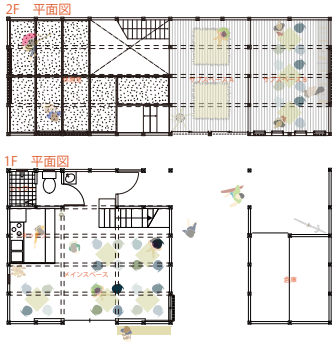


3. コワーキングカフェ「がやがや門」

納屋として使われていた長屋門を皆の活動の場へ



第2弾プロジェクト「学び家」に隣接する倉庫である長屋門を、**学生と地域のコ・ワーキングスペース**へと改修したプロジェクトです。カフェのように気軽にオフィスを借りることのできる、“co-working”という新しい活動方法を取り入れています。これまでのプロジェクトと大きく異なるのは**コ・ワーキングスペースの「運営」に取り組んでいる点**であり、シェアオフィス経営者へのヒアリングや学生団体との連携、商工会会議への参加など、既存のネットワークと新規ネットワークを最大限に活用しながら挑発的な姿勢でプロジェクトを進めています。

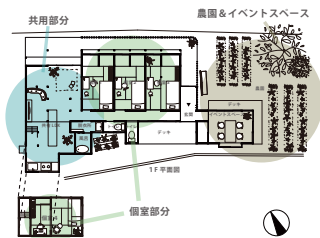


4. Farm Share House 篠原

築60年空き家を地域協働農園付きシェアハウスへ



シェアハウスという多様な学生居住環境の一つのかたちを提供し、学生を含む若年層が農業に対して関心を持てる機会を創出する場を作り出していきます。新しく生成された空間に対して、「居住スペース」「イベントスペース」「農園」とゾーニングをし南東側(図面右側)を賑わいの核とすることで、“**農を通じた人々の交流や活動**”が生まれる、また各要素が相互に関わりあっていくことを狙っています。



5. 個性の集う家“シノハウス”

2階建て木賃をDIYで交流を生むシェアハウスへ



昔ながらの木賃アパートの2階を学生が居住し、且つ糸島との接点を持てるようなシェアハウスへと改修しています。本物件は**住民の個性を引き出すこと**をコンセプトにしており、布障子を用いた個室の入口や、入居者仕様にカスタマイズできる押し入れなどを設計しています。布障子については、地域住民、学生、入居希望者を募集しワークショップ形式で作成。草木染ワークショップと布貼りワークショップなどを行うことで、DIYを楽しんでもらうだけでなく、地域の方と学生の交流を図っています。

6. 今後の展開



私たちは、糸島地域の空き家改修をきっかけに地域住民との空き家の利活用について考え、学生と地域住民の豊かな交流を生み出してきました。その中で空き家を地域資源として活用していくには制度面の障害や予算面での課題があることも実感しています。それらの困難を乗り越えていく際に欠かせなかったのはいつも『人の力』でした。初期の物件で援助していただいた方からアドバイスをいただいたり、人伝いに口をきいていただいたりと私達の活動は近隣住民を始め、学生や大工さん諸関係者の皆さんの深い理解の上に成り立っている活動です。創立7年目の糸島空き家プロジェクトで諸先輩方が築き上げた多岐にわたる人脈を次の世代につなげていく重要性も感じています。しかし、メンバーの入れ替わりのある学生団体だからこそ、常に新たな出会いのある学びの場であり続けることができます。企業でもなく、行政でもなく私達学生にしかできないことを自覚しながら、学生と地域の架け橋になる存在として糸島地域の活性化にこれからも貢献していきたいと考えています。